作成日 2024年03月05日

青瓶 摩擦試験、耐水試験結果

＜目的＞
第三者機関による青瓶の耐久性を評価すること

＜試験方法＞

日本工業規格が定める試験方法（JIS K 6547 革の染色摩擦堅ろう度注）試験方法を一部改良）とした。具体的には、青瓶を施工した試験用皮革に対して、デニム生地を擦り付けて行った。

注）堅ろう度：色汚染に対する強さ

＜条件設定＞

80kg の人間が車のシートに座った場合、最も荷重を受けやすい尾骨の下部と背もたれシート部分の面積を約35cm、幅が30cm とし、接地面積を 1,050c ㎡とした場合、1c ㎡当りにかかる荷重は、約 0.076kg（76g）となる。

∴試験では 1c ㎡当り 80g の荷重をかけた状態で摩擦が起こった状態を仮定する
【摩擦回数は 1 日に10 回の摩擦が毎日かかった場合の 3 年分を試験回数とする】

摩擦回数：10 回/日×365 日×3 年=10950 回なので試験実施は 11000 回行った

＜評価方法＞

試験用皮革に対してデニム生地からの色移りの有無を確認したと同時にコーティング皮膜の耐摩擦性を評価した。

＜実施機関＞

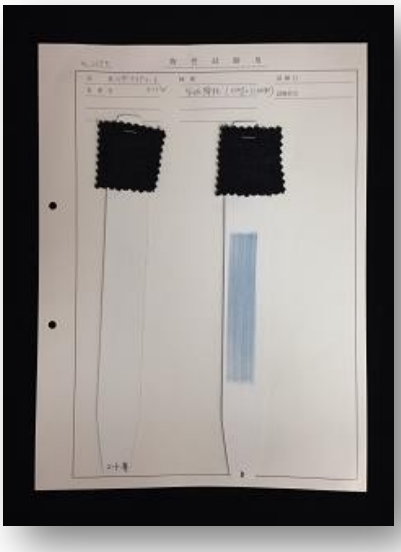
財団法人日本皮革研究所 分析センター

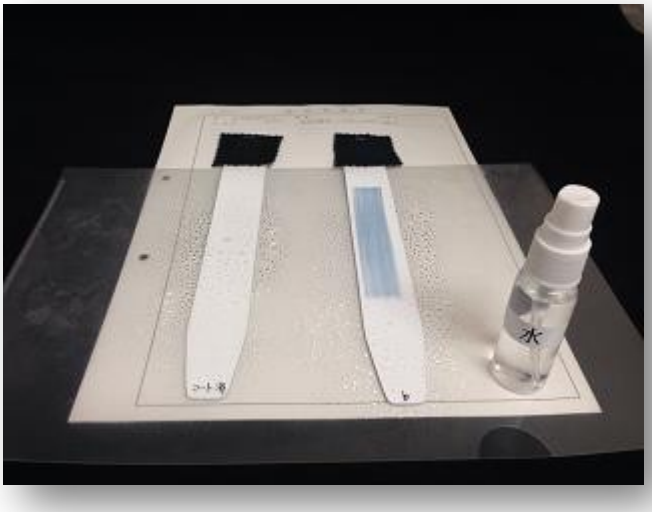
〒302-0017 茨城県取手市桑原 520-11

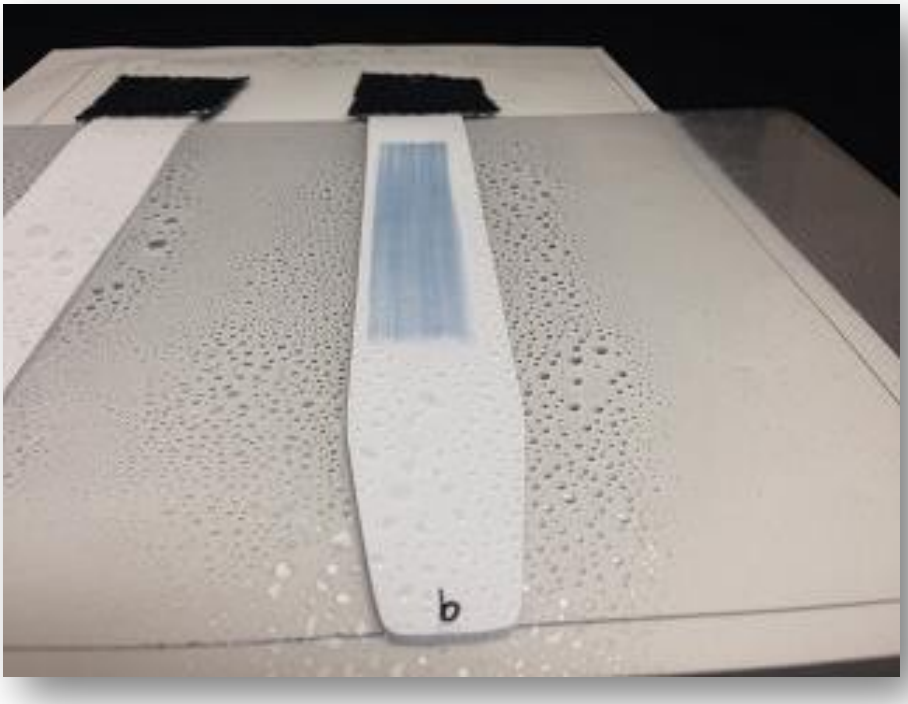
URL　http://bunseki.jilr.or.jp/

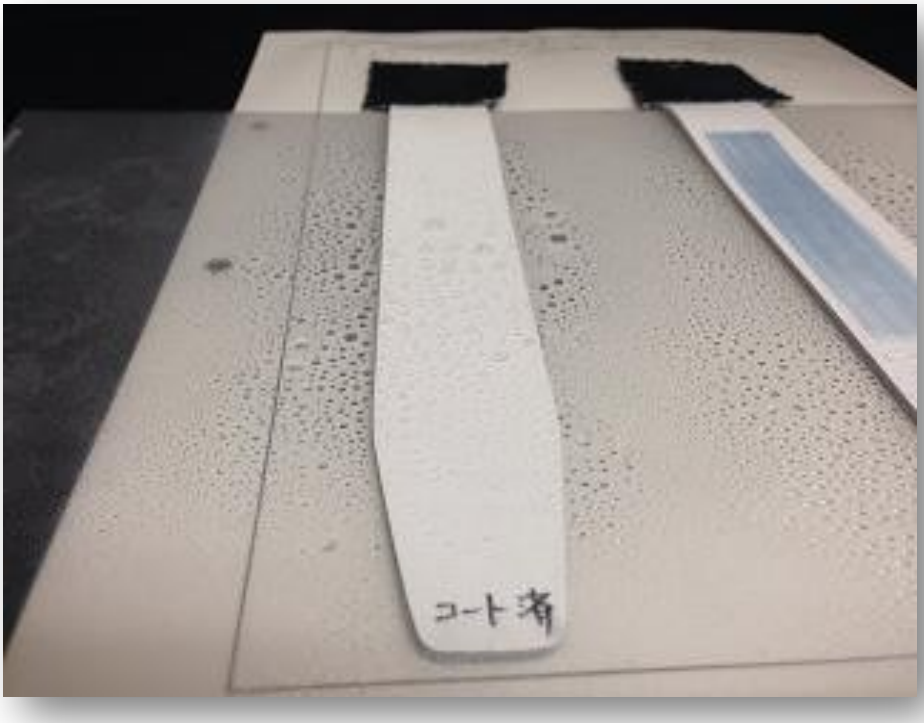
＜結論＞

デニム生地からの色移りは、色汚染度 4 級（ほぼ汚れていない）と判定され、塗膜の割れ、剥離等の異常は確認されなかった。









上記２枚は11000 回の耐擦試験後の試験片に水をかけて撥水状態を見た写真

コート済試験片は十分な撥水状態にあり、塗膜が残っていることが視認できる。

(撥水状態を見易くするために下にガラスを敷いてスプレーした状態)

青瓶 耐水試験結果

＜目的＞

青瓶の耐水性を評価すること

＜試験方法＞

日本工業規格が定める試験方法（JIS K 6550 革試験方法）とした。具体的には、試験用皮革の銀面（表側）対し、口径 50mm、水中高さ 80cm の水圧を加えた際に、裏面まで水が通過するまでの時間を測定した。

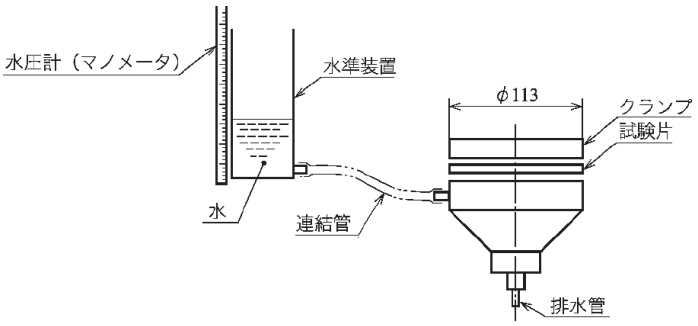


図 試験装置の概略図

＜評価方法＞

青瓶施工の有無による水が革を通過するまでの時間の違いから耐水度を評価した

＜実施機関＞

財団法人日本皮革研究所 分析センター

〒302-0017 茨城県取手市桑原 520-11

URL　http://bunseki.jilr.or.jp/

＜結果＞

双方とも水を通さない結果となった。試験革片の厚さを変更して再度実施予定。